

名曲の裏に作曲家の人生 プロマのひそひそ話

クラシック音楽の祭典プロムスで演奏されるあの名曲を生んだ
作曲家のエピソードを、オペラ歌手、榎本明子がスパイスをかけてご紹介。

「うつ病の音楽家」セルゲイ・ラフマニノフ

Сергей Васильевич Рахманинов

(1873.4.1 ロシア帝国セミョノヴォ生まれ 1943.3.28 米国ビヴェリー・ヒルズ没)

ロマンティックな音色で人気の作曲家ラフマニノフですが、彼がすごく大きな手を持つピアニストでもあり、また厳しい指導で知られる指揮者として活動しながら、うつ病に悩んでいた、と知ったら驚くでしょうか。今回は、そんな彼が経験した挫折とそこからの復活についてです。

まだ学生だった頃に作曲した作品が、**ピアノ協奏曲第1番 (10) ***。初演ではラフマニノフ自身がピアノを弾いています。学生時代からピアノや作曲のコンペティションで金賞を受賞するほどの優秀振りを発揮していたようです。

ロシア音楽界の先達であったチャイコフスキーが亡くなった際には大きな衝撃を受けたようで、その時の気持ちを主題とした作品をいくつか残しています。ところがそのうちの一つである**交響曲第1番 (34)** は、とある指揮者の放漫によって適当に演奏された挙句に批評家に酷評されるという散々な結果に終わりました。またラフマニノフはいとこの結婚を望んでいたのですが、いとこ同士の結婚は

ロシア正教会に了解を得なければならず、この許しがなかなか下りなかったことなどが精神的ストレスとなり、神経衰弱と完全な自信喪失を引き起こして、その後3年ほど曲が書けなくなります。

この時期に大きな貢献を果たしたのが、精神科医でアマチュアのチェロ奏者であったニコライ・ダーリ。彼はラフマニノフに3か月間「素晴らしいピアノ協奏曲を書く」という自己暗示療法を用いて、出世作となる**ピアノ協奏曲第2番 (69)** が誕生するまでの手助けを行います。この初演もラフマニノフ自身がピアノを担当し好評を博した結果、作曲家としての名声を確立しただけではなくピアニストとしても尊敬を集めました。そして役は自信を取り戻し、ついに鬱を乗り越えたのです。

カッコ内の数字は、プロムスで行われるコンサートに割り振られた番号です。プロムスに関する詳細につきましては、以下のサイトをご参照ください。www.bbc.co.uk/proms/2008

*今週のプログラムからのお勧めはProm10

ラフマニノフが暮らしていた頃のロシアではまだ、ピアノ協奏曲はあまり多く作られていませんでした。彼が先駆者として、17年間かけて改訂したという曲を是非お楽しみください。

7月24日 (木) 19:30~

♪指揮: ヤン・バスカル・トルトゥリエ

♪演奏: BBC交響楽団
♪会場: ロイヤル・アルバート・ホール

豆知識

今年初めての試みとなる「Proms Plus」は、無料で鑑賞できるプログラムです。会場となるRoyal College of Musicでは、また一味違った演奏を堪能できるはず。

榎本明子 国立音楽大学声楽学科卒。その後、元ロイヤル・ハウス・オペラ教育部門などでオペラ研修。蝶々夫人のスズキ役でヨーロッパを回るほか、月例Twilight Lecture Concertを企画演奏する傍ら、「自分の声と出会おう」と幅広いジャンルの声を使う人達にレッスンをを行っている。通称「あきゴン」。www.akiko.org.uk